



平成27年1月15日～18日、3泊4日の行程で、栃木県農業会議主催の海外農業事情調査に参加しました。県内の農業委員会会長等総勢23名が参加し、TPP参加国であり、世界有数の米輸出国であるベトナムの農業事情等を視察して参りました。

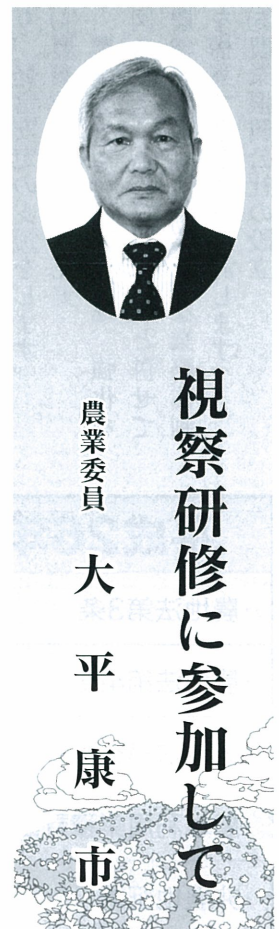
世界では年間4,000万トンの米が輸出されており、そのうち27%をインドが、次いでベトナムが17%（700万トン）を占めています。

そのような状況の中、現地の農家と契約して日本米を栽培、輸出しているアンジャン省ロンセン市にある「アンジメックス・キトク」を訪問しました。この法人は、東京都中央区銀座に本店を置く、木徳神糧株式会社のグループ企業で、1991年にアンジャン省の輸出入公団との合弁で設立され、メコン河流域の稲作地帯で日本米等を生産し、アジア諸国をはじめ、北米、欧州等に輸出しています。

この企業は契約農家に種もみを支給し、日本の農閑期に日本人指導員が栽培指導を行っています。契約単価は高めに設定され、品質が良ければ加算金を与え、優良農家を表彰する等、生産意欲を高める制度もありました。

昨年には自社の乾燥施設4基を設置し、年間を通じて安定した品質を保つ努力がなされています。ここでは、日本製の精米機や色選別機が使われていました。

日本の大手米卸売業者によるベトナムでの日本米の契約栽培、輸出等の取り組みについて調査をするとともに、市場やスーパーマーケット、文化施設の視察等、たいへん有意義な視察研修となりました。



平成26年11月19日～20日は農業委員会の視察研修に参加しました。研修先は宮城県加美町の加美よつば農業協同組合です。目的は飼料用米専用カントリーエレベーター（CE）を設置している当JAの取り組み状況の視察並びに農業委員の資質向上を兼ねて実施しました。

JA加美よつばは平成11年4月加美郡内の4つの農協が合併して誕生。農業は稲作と畜産が中心のことです。畜産農家とは堆肥を活用した農作物の有機栽培等、環境に配慮した農業に積極的に取り組んでいます。特に注目したのがJA加美よつば管内のすべてに集落営農組合が設立されていること。

飼料用米の作付が拡大したのはこの組合活動を中心に官民が一体となつて農家の所得向上を進めていると強く感じました。作付面積は平成25年度が280ヘクタール、26年度が380ヘクタールと驚異の数字で、圧倒されました。年間を通じて均一な品質の飼料用米を

供給出来るよう専用CEを新設しています。現在納入している養豚農場からさらなる増産を求められるなど環境は良いと感じました。また、低コスト化に対応する取り組みとして灌水直播栽培が一部で導入されています。農家として歓迎するのが飼料用米に仮払金を支払っているということ、これは全国的にも珍しいと思います。視察は午前10時から12時30分と長時間となりましたが、委員の皆様、さんが真剣に説明を求めて場内を回り、実りのある視察研修でありました。

